

骨粗鬆症 WEBセミナー

日時

2026年 1月22日(木) 19:00～20:00

追っかけ再生あり ※21時までに視聴開始した方に限り、お好きな個所からご覧いただけます。

活性型ビタミンDの真価と適正使用： エビデンスに基づく骨粗鬆症治療の最適化

演者



蛸名 耕介 先生

大阪大学大学院
医学系研究科 器官制御外科学 整形外科
准教授

主催
東和薬品株式会社

活性型ビタミンDの真価と適正使用： エビデンスに基づく骨粗鬆症治療の最適化

蛸名 耕介 先生

大阪大学大学院 医学系研究科
器官制御外科学 整形外科 准教授

本邦における骨粗鬆症の潜在患者数は約1600万人と推定され、それに伴う大腿骨近位部骨折の発生件数は2017年度で年間193,400件と、いずれも増加傾向にある。本邦では様々な骨代謝調整薬・骨吸収抑制薬・骨形成促進薬などが使用可能となっているが、これらの骨粗鬆症治療薬の有効性の大前提となっているのはビタミンD（VD）とカルシウム（Ca）の適切な充足である。骨粗鬆症治療における骨密度の増加には、VDやCaの充足による骨石灰化の促進や、VDや骨への力学刺激による骨モデリング（骨吸収を伴わない骨形成）が必要である。一方でVDやCaが不足すると副甲状腺ホルモンの産生が亢進し、骨吸収を亢進させる。以上よりVDを充足することは骨恒常性維持と骨粗鬆症治療において必須の要素と考えられるが、本邦においては約80%以上でVDが不足しているとの報告がある。一方で腎機能低下例における過剰な活性型VDの充足は高Ca血症や尿路結石につながる可能性もあり、適切な用量調節や定期的な検査が必要と考えられる。現在の超高齢化社会において、長期的視点に立った安全かつ効果的な骨粗鬆症治療計画のためには最新情報のupdateと、それに基づいた論理的な思考が必要とされている。本講演では骨代謝の基本的考え方と、最新の骨粗鬆症治療薬の特徴・併用療法などを踏まえた骨粗鬆症治療の最適化について、最新のエビデンスを供覧しながら概説する。

骨粗鬆症WEBセミナー 視聴登録

下記視聴予約URLより事前お申込みの上、ご視聴ください。

<https://re.m3dc.live/towayakuhin20260122>



東和薬品 視聴予約システム

視聴登録いただいた先生方へ弊社MRが訪問させていただくことがあります。

ご提供いただきました個人情報は、ご視聴いただいた先生の確認のほか、今後のセミナー・イベント、弊社製品に関するご案内のために使用します。

個人情報は、東和薬品と業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。

個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理いたします。

お問合せ先

東和薬品株式会社 営業本部 営業戦略統括部 営業企画部 営業推進課
eigyousuishin@towayakuhin.co.jp